



# 産業連関表とは？

## ある地域における産業間の財・サービスの流れがわかる一覧表

[産業連関表(基本表)の構造]

需要部門 (買い手)		中間需要				最終需要			輸入・移入	地域内生産額
		1 農林水産業	2 鉱業	3 製造業	計	地域内最終需要				
						消費	投資	在庫		
供給部門 (売り手)					A	輸出・移出	B	C	A+B-C	
中間投入	1. 農林水産業	列 ↑	行 ←	生産物の販売構成(産出)						
	2. 鉱業									
3. 製造業										
	計 D									
粗付加価値	雇用者所得	原材料の中間投入及び粗付加価値の構成(投入)	↓							
	営業余剰									
計 E										
地域内生産額		D+E								

「商品流通調査」の結果をベースに推計

$A+B-C=D+E$

○「基本表」は、ヨコ方向に見ると、生産物の販売先構成(産出)が解り、タテ方向に見ると、原材料及び付加価値等の費用構成(投入)が解ります。

○経済を構成する各産業部門の財とサービスの取引をまとめた産業連関表は、

①地域の産業構造を把握できます。

②各産業部門間を通しての究極的な経済波及効果を把握できます。

○産業連関表の特徴は、各産業部門間の中間投入・中間需要という中間取引の構造を重視した表になっている点です。

○日本及び国内各地域をはじめ、世界の国々で作成されており、日本では西暦の末桁が0と5の年を対象に作成します。

※ 列(投入)の地域内生産額と行(産出)の地域内生産額は等しくなり、列、行それぞれの産業の生産額と一致する。